

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100259		
法人名	有限会社 楽らく		
事業所名	グループホーム 楽らく		
所在地	三重県南牟婁郡紀宝町成川1076の5		
自己評価作成日	平成22年2月27日	評価結果市町村提出日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2473100259&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 22 年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「普通の暮らしとは何か」ということをグループホーム楽らくの介護の基本において日々の実践につとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から一步中に入った地の利で、大変静かな環境にある。諸設備が良く工夫され暮らしやすい場となっている。特に、2階ホーム部分がデイサービスと渡り廊下で直結したことで、災害時の避難方法が一つ増えた事、デイサービスの設備を利用することが可能になり、行動範囲を広げることができた等、利用者にとって暮らしやすい条件が整ってきている。職員は利用者一人ひとりの行動パターンをよく把握しており、その人にあった暮らしぶりを大事にした対応をしている。自分の意思表示が出来ない人への対応は、介護のプロとしての自覚により、利用者の思いをうまく引き出す対応をしている。また、季節に応じたイベントや飾り物などで、季節感を活かした取り組みも図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心・・・楽しく、気・・・楽に」を基本理念とし、入居者の皆さんと職員が共に楽しみ、閉鎖的にならない、開かれた事業所作りに取り組んでいる。	理念はオープニング時に運営者とスタッフで考えたものである。イベントの際には近所への声かけをするなどで地域密着を図っている。運営者自らが朝の申し送り等で、職員に理念を話し、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の大掃除や氏神様のお祭りに参加すると共に幼稚園や小学校の運動会等の活動や、町社協主催のイベント等の地域の行事に可能な限り参加している。	小学校が近く、校長自らが老人への理解を示し、運動会、学芸会などへの招待がある。保育園児ともクリスマス、いも掘り等の行事で交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「楽らく」に於いて日本舞踊、コーラスグループ等の地域のボランティア活動の発表の場を借りて地域住民の皆さんにグループホームの説明や認知症への理解や支援をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を基にボランティアにおける入居者の野外活動や緊急時等の協力を約束している。	3か月に一度の開催である。主に利用者の入居状況と活動報告であるが、参加者の尽力でボランティアに協力依頼をすることができ、認知症への理解を深めている。	年間の開催予定日を組むなどの工夫で2か月に一回の開催に取り組んでいた。マンネリ化しないよう運営に工夫をしながら、より一層の地域の支援と理解を得られるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の更新手続などで役所に出向っており、制度面等についても解らない処について指導していただいている。	申請手続きやスプリンクラー設置補助金のお問い合わせ、介護保険制度のアドバイスなど、多岐にわたり町との連携はよく図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等で取り上げ身体拘束防止の徹底を図っている。	玄関の施錠はしていないが、センサーで玄関の出入りと2階からの昇降を感知する仕組みがある。カンファレンスで身体拘束について職員で議論をし、拘束禁止についての周知を図り、ケアに生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に言動や身体変化に注意し、申し送り時に身体的、心理的、性的虐待や言葉での虐待がないか提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の権利擁護について、社会福祉協議会職員や司法書士の先生に直接、話を聞く機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書を前にし家族や代理人に説明し理解して頂いている。改定の際は文章にて了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	包括支援センターからのアドバイスにより地域ボランティアの協力を頂いている。	玄関に意見箱を置き、書面により申し立て機関の周知も行い、外部への意見表出の機会を設けている。面会に来られた時に個別面談を行い要望を聞いたり、遠方の家族にはメールで意見交換をするなどで、意見の反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会あるごとに個別面談を設け、職員の意見や提案を聞き、反映している。	カンファレンスで意見交換を行い、意見や提言の反映に努めている。半年に一度、統括との個別面談を行い、職員の本音を聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みに対し研修会等の時間外手当の支給や資格試験の宿泊費の補助を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスはもとより外部での研修に際しても、時間外手当などの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の書記に席を置き同業者とのネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネージャーからの情報や本人と家族を交えた面接を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様への協力のお願いや面会時に常に意見や要望を聞く機会を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の不安を取り除く為に、言葉や態度、行動などに気をつけ、入居者の皆さんとの仲を取り持つ対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛け一つにも気を付けながら尊厳と感謝の気持ちを心がけます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族様とは連絡を密にしグループホームでの生活内容を把握していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎやお便りの支援など、積極的に行っているほか、多人数の面会者に対し、会議室の提供も行っている。	手紙を出す人には住所の代筆をするなど、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。面会者も温かく迎え入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに部屋を訪問できるような間柄を取り持つ支援をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院退去に対しても、面会に出向くなどして、出来るだけの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの出来る事、出来ない事を記録に残し、出来る事は本人に積極的に行っていただく。	担当制は引いていないが、気のあう職員や職員と二人きりになると思いを伝えてくれる事を把握し、ミーティングで職員が共有し検討している。意向の把握が困難な場合は行動、しぐさ、言葉などから観察をして各自にあう対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や御本人をよく知っている関係者からの情報や気づきを集約している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態を把握し、その日の過ごし方に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で、意識的に本人が求めている事を引き出しながら、御家族及び関係者の意見を取り入れて作成している。	家族、本人、計画作成担当で話し合いを持ち、ケアカンファレンスで職員に伝えて意見を聞き、介護計画書を作成している。家族にも了承を得ている。6か月に一度見直しを行うと共に、変化のみられる時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に個人台帳を作成し、記録している。台帳の閲覧場所を決め職員が常に情報の共有ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の要望については、突然の宿泊希望等についても柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民の方に、ホームでの行事等においては、観賞や参加を呼びかけをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連絡を普段から密にし、往診をお願いしている。	入居前のかかりつけ医を聞き、協力医以外に地元の3人のドクターに往診をしてもらっている。緊急時には紀南病院の協力をお願いしてある。家族の受診同行が難しい場合には事業所で同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護の資格保持者の職員がおり、日常の健康管理の支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室と相談や情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全員による終末期における方針を共有しつつある。	家族の希望もあり、昨年一人の看取りを経験した。「医療連携加算体制における看取り指針」を作成しているが、看護師と管理者の対応で職員に安心感を与え、終末期に向けた方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練については定期的に行って行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災に対する避難訓練を年2回実施しており、地震災害時の避難場所としてのデイサービスの建物の提供を申し出ている。	地域の人に協力依頼をしているが、地域の人々の消防訓練への参加はまだない。初期消火対応や階段の避難誘導などは職員に徹底している。近々スプリンクラー設置の予定もある。	夜間想定をした実質的な訓練と地域の人たちの協力を得る取り組みにより、一層の安全確保を図られるよう希望したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室への出入りは勝手にせず、人前であからさまに介護しない、目立たない介護に気をつけている。	各自の好みや今までの生活習慣に合わせた名前の呼び方をしたり、小さな声での介護を心がけている。細かなことだが、トイレの開け放しやトイレパットの始末にいたるまで、一人ひとりを尊重した介護をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の皆さんの状態に合わせて無理強いをしない介護に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた、その人らしさを優先させた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人や御家族と相談し希望があれば理髪店へ出かけている。また、美容師にホームに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に時間が掛かっても、出来るだけ自分自身で食べて貰い、職員と共にゆっくりと食事を楽しんでいただいている。	献立は1階2階の主任で作成し、食材の購入をしている。盛り付けや配膳、食器洗いなど出来る利用者は職員と一緒にしている。職員は利用者と同じ食事を同じテーブルで共にし、食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は、各入居者の介護日報に記録し、介護に反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の皆さんの状態に合わせて、毎食後の歯磨きの習慣を持続した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿間隔や尿量を把握し、こまめにトイレ誘導を行い、失禁を減らすことに力を入れている。	排泄チェック表をつけて排泄パターンを把握している。トイレを暗示する言葉などからいち早く察知、観察をすることで、失禁を減らすように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない、自然なお通じを目指し、適度の運動や食事に工夫を加えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にその日の健康状態を観察し、入浴しても大丈夫か見極めをしている。	お風呂は毎日沸かしているが、夕方5時までの入浴としている。一人ひとりに対応するために浴槽内のお湯は、その都度交換している。希望を聞き健康状態に応じての入浴支援をしているが、拒否の人は3日以上は明けないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事作りなど日中の活動を通じて、生活のリズム作りを意識的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに整理し職員が何時でも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に健康状態を把握し、マンネリ化しない生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日が近くなると、個人の希望を聞き、外出や趣味への、できる限りの支援をしている。	外出希望者は職員が付き添い、何度も散歩に出るなどしている。誕生日が近くなるとその方の希望を聞き、願い事としてかなえるようにしている。旅行希望者には行きたい所へ職員同行で実現させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や、力に応じて配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にパスワードとIDを渡し、インターネットカメラを利用した支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に季節の花をたやさず、安らぎのある玄関にしたいと心がけている。	広々とした玄関から廊下、居間へと通じた空間は、採光も広さも居心地良く、木の温かみを感じられる。至るところに季節の花が活けられ、畳の間では炬燵も用意されて、居心地よく過ごせるような配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	八畳のタタミの部屋にテレビが置いてあり、利用者同士が思い思いに楽しむ空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やカーテン、食器などを持ち込んでもらっています。	ベッド、カーテン、テレビ、位牌など一人ひとりに応じたものが家族と相談の上持ち込まれ、使い慣れたもので安心して過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室のドアの模様を変えており、入居者の皆さんは、ドアを確認して入室しており、現在の所間違える方は居ません。		